太宰治　生誕100年記念

太宰治と旅する津軽

青森・津軽エリアへのアクセス

◆航空

東京（JAL）	1時間15分	青森空港
大阪〈伊丹〉（JAL）	1時間30分	
中部国際（JAL）	1時間20分	
札幌（JAL）	45分	
福岡（JAL）	2時間（H19.10～休止）	
ソウル（大韓航空）	2時間55分	
ハバロフスク（タリアビア航空）	2時間10分 ※季節便	

お問い合わせ／
●JAL予約センター ☎03-5460-0522 0120-25-5971
●大韓航空（株）青森支店 ☎017-732-3313
●ジャパンツアーみちのく（株）日本支社（ハバロフスク便）☎017-722-0200

◆JR

東京	はやて（2時間56分）	八戸	つがる（54分）	青森
函館	スーパー白鳥（1時間48分）			青森
大阪	特急寝台 日本海（14時間10分）			青森
新大阪	のぞみ（2時間26分）	東京	はやて（2時間56分）	八戸 つがる（54分） 青森

■各区間の所要時間は最速時間となっております。
お問い合わせ／●JR東日本テレフォンセンター ☎ 050-2016-1600

◆高速バス

東京⇔	青森	（ラ・フォーレ号）約9時間30分	〈JRバス〉
東京⇔	青森	（渋谷）（ブルースター号）約11時間	〈十和田観光電鉄〉
東京⇔	青森	（上野）（青森上野号）約11時間 ※昼行便	〈弘南バス（青森）〉
仙台⇔	青森	（ブルーシティ号）4時間50分	〈JRバス、十和田観光電鉄、弘南バス（青森）〉
盛岡⇔	青森	（あすなろ号）約2時間50分	〈JRバス、弘南バス（青森）〉
東京品川⇔	弘前	（ノクターン号）約9時間15分	〈弘南バス（弘前）〉
上野⇔	弘前	（青森上野号）約9時間30分 ※昼行便	〈弘南バス（弘前）〉
上野⇔	弘前	（パンダ号）約9時間 ※夜行便	〈弘南バス（弘前）〉
横浜⇔	弘前	（ノクターン号）9時間45分	〈弘南バス（弘前）〉
仙台⇔	弘前	（キャッスル号）約4時間20分	〈弘南バス（弘前）〉
盛岡⇔	弘前	（ヨーデル号）約2時間15分	〈弘南バス（弘前）〉
東京品川⇔	五所川原	（ノクターン号）約10時間15分	〈弘南バス（弘前）〉
横浜⇔	五所川原	（ノクターン号）約10時間45分	〈弘南バス（弘前）〉

お問い合わせ／●JRバス☎017-723-1621※予約専用017-773-5722
●十和田観光電鉄 ☎017-773-5006
●弘南バス（青森）☎017-726-7575
●弘南バス（弘前）☎0172-37-0022

◆フェリーボート

3時間40分（在来線）
函館 ～～～～～～～～～～ 青森

お問い合わせ／ ●東日本フェリー(株)青森支店 ☎ 017-782-3631
●東日本フェリー予約センター 0120-756-569

◆高速道路

●主要インターチェンジからの所要時間（時速80kmで算定・距離は青森までのもの）

679.5km 浦和本線I.C. 約8時間30分 ／ 463.1km 郡山I.C. 約5時間50分 ／ 347.1km 福島西I.C. 約5時間20分 ／ 424.6km 仙台宮城I.C. 約4時間20分 ／ 406.9km 山形北I.C. 約5時間 ／ 340.6km 秋田北I.C. 約4時間15分 ／ 167.4km 盛岡I.C. 約2時間 ／ 184km 八戸I.C. 約2時間20分 ／ 安代JCT

青森I.C.
※青森I.C.から青森中央・東I.C.には乗り入れできません。

6.1km 約5分（70km/h） 青森中央I.C.
9.5km 約8分（70km/h） 青森東I.C.
※青森中央・東I.C.から青森I.C.には乗り入れできません。

お問い合わせ／●NEXCO東日本お客様センター ☎0570-024-024（24時間対応）
☎03-5338-7524

観光問い合わせ

観　光

●青森県観光総合案内所（アスパム内）	017-734-2500
●青森空港総合案内所	017-739-2007
●（社）青森県観光連盟	017-722-5080
●青森県東京観光案内所	03-5276-1788
●青森県北海道情報センター	011-241-2332
●青森県大阪情報センター	06-6341-2184
●きた東北発見プラザ jengo（ジェンゴ）	06-4704-2626
●青森県名古屋情報センター	052-251-2801
●青森県福岡情報センター	092-736-1122
●青森市観光案内所	017-723-4670
●弘前市観光案内所（JR弘前駅内）	0172-26-3600
●弘前市立観光館	0172-37-5501

交　通

［観光バス］

●（社）青森県バス協会	017-739-0571

［観光タクシー］

●青森県タクシー協会	017-739-0545
●青森市タクシー協会	017-781-4015
●弘前市ハイヤー協会	0172-27-7778

［レンタカー］

●青森県レンタカー協会	017-739-0560

［鉄道］

●JR東日本青森支店	017-734-6734
●津軽鉄道	0173-34-2148
●弘南鉄道	0172-44-3136

宿　泊

●青森県旅館ホテル生活衛生協同組合	017-777-3411
●青森市旅館ホテル協同組合	017-777-4850
●浅虫温泉旅館組合	017-752-3259
●蟹田旅館組合	0174-22-2046
●平舘旅館組合	0174-25-2138
●今別旅館組合	0174-35-2071
●三厩旅館組合	0174-38-2011
●浪岡旅館組合	0172-62-2074
●弘前市宿泊情報ネットワークシステム（やどねっと）	
弘前市立観光館	0172-37-5501
弘前市観光案内所	0172-26-3600
弘前市旅館ホテル組合	0172-34-2657
●黒石市旅館組合	0172-52-4361
●大鰐温泉旅館組合	0172-48-3231
●五所川原市旅館組合	0173-29-3260
●板柳旅館組合	0172-73-2641
●つがる市ホテル旅館組合	0173-46-2821
●鰺ヶ沢旅館組合	0173-72-5111
●深浦旅館組合	0173-74-3320

◎発行／青森県観光局新幹線交流推進課 TEL.017-734-9384　◎発行日／2008年10月
青森県観光情報ホームページ（アプティ・ネット）http://apti.net.pref.aomori.jp/
このパンフレットは、上記ホームページからダウンロードできます

太宰さん、百年たった津軽の景色はどうですか。

太宰さん、
あなたが生まれて百年になるんですね。
あなたが生まれ育った
津軽の風景を目に焼き付けたくて、
旅に出ました。
だから太宰さんも一緒に、
津軽の旅に
お付き合いくださいね。

昭和21年、金木村（五所川原市）芦野公園にて

写真右／昭和23年　三鷹の踏切りにて（田村茂 撮影）
写真下／青森県北津軽郡金木村（五所川原市）太宰治の生家にて。左から2人目太宰治、中央姉 トシ、右端弟 礼治

太宰　治プロフィール

1909年（明治42年）6月19日、青森県北津軽郡金木村（現在の五所川原市）に、県下有数の大地主の六男として生まれる。17歳頃から小説の習作を始め、1932年（昭和8年）に「魚服記」「思ひ出」を発表し、注目される。「女生徒」「富嶽百景」「走れメロス」「津軽」「斜陽」「人間失格」など多数の作品を著す。1948年（昭和23年）没。

2009年 太宰治生誕100年

2009

2009年（平成21年）には太宰治生誕100年を迎えます。これを機に、「太宰治生誕百年祭」（五所川原市）をはじめ、青森県内でさまざまなイベントが開催されます。

- ◆太宰治生誕百年祭式典／2009年6月19日（金）
- ◆記念フォーラム／2009年6月20日（土）
- ◆祝賀会／2009年6月20日（土）
- ◆走れメロスマラソン／2009年6月21日（日）
- ◆記念展示会／2009年5月～6月

2010年 東北新幹線 全線開業

2010

東北新幹線は、2010年（平成22年）度に、八戸～新青森間が開通、東京と青森が最速3時間10分で結ばれる予定です。青森、そして津軽がより身近に、気軽に旅を楽しめるようになります。

目　次

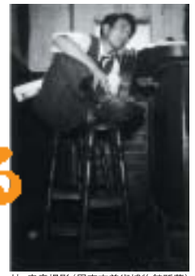
映画監督
秋原正俊インタビュー 3
太宰 治　作品コレクション 4
『津軽』の旅・前篇 5
『津軽』の旅・後篇 7
つがる探究 9
太宰治と歩く津軽・五所川原 11
太宰治と歩く津軽・弘前 13
太宰治と歩く津軽・青森 15
つがる歳時記 17

岩木山

津軽鉄道

本冊子使用写真提供◎日本近代文学館◎青森県近代文学館◎田村写真事務所◎周南市美術博物館

時代を翔る


林 忠彦撮影（青森市美術博物館所蔵）

太宰 治 作品コレクション

昭和8年（1933）、「列車」発表以来、太宰治は数多くの作品を執筆し、現代に至るまで様々な形で何度も出版されてきました。少年文庫、絵本、漫画……。時代を超えて、幅広い年齢層に読み継がれてきた、太宰治の作品を紹介します。

斜陽

［ 新潮社 ］ 1948年刊

［ 旺文社 ］ 1977年刊

［ 蛇社 ］ 2005年刊

［ イースト・プレス ］ 2008年刊

津軽

［ 小山書店 ］ 1944年刊

［ 新潮社 ］ 1968年刊

［ 津軽書房 ］ 1976年刊

［ 未知谷 ］ 2006年刊

人間失格

［ 筑摩書房 ］ 1948年刊

［ 金の星社 ］ 1982年刊

［ 集英社 ］ 2006年刊

［ 新潮社 ］ 2008年刊

走れメロス

［ 偕成社 ］ 1966年刊

［ 戸田デザイン研究室 ］ 1984年刊

［ 岩波書店 ］ 2002年刊

［ 角川書店 ］ 2008年刊

晩年

［ 砂子屋書房 ］ 1937年刊

［ 養徳社 ］ 1946年刊

［ 大和書房 ］ 1966年刊

［ 新潮社 ］ 2005年刊

資料提供／青森県立図書館・日本近代文学館　※上記の本には、絶版や期間限定、残部僅少のものもあります。

小泊より岩木山を望む

Interview

映画監督
秋原正俊

名作と謳われる文学作品を原作に、現代の感性をもって描く"新感覚ブンガク映画"シリーズを打ち出している秋原正俊監督。その10作目となる作品が『斜陽』に決定し、太宰治生誕百年記念作として2009年5月に公開される予定です。小説「斜陽」を通して見た太宰治の魅力、そしてその素地を育んだ地"津軽"について語っていただきました。

秋原監督が、太宰治の小説を題材にするのは『富嶽百景　遥かなる場所』（2006年公開）に続き、今回で2作目。「青森との繋がりは前作『富嶽百景　遥かなる場所』が始まりで、太宰が生まれ育った場所ということで青森での上映も行いました。公開が終わった後、地元のいろいろな方から声をかけていただいて、それを聞いて次はこうやりたいと持っていたのが、今作のスタートラインになっています。生誕百年については当初から頭の中にあったので、果たしてどの作品がふさわしいのかなと。太宰の小説のなかで認知度が高く、映像化ができるものを考えた結果、二択三択もなく『斜陽』にいきつきました」。小作品の「富嶽百景」から、今回は、独特の美意識と人間模様が編まれた太宰治の真骨頂たる長編への挑戦に。「太宰が小説を書くベースとなっている部分はどの作品も変わりないと思うんですが、その表現の仕方、意図の出し方をかなり意識している作家だと思うんですよ。『斜陽』という小説も、太宰の自信だったり不安だったりが、直治や上原といった登場人物に投影されています。自分としては、太宰治という人物がどう考えて、どう生きていったんだろうと探ることが面白いので、作品自体がどうのこうのというよりは、「斜陽」という作品のフィルターを通して彼が何を考え、何を伝えたかったのかという部分を引っ張り出して、それを映像化していきたいと思っています」。

作品への畏敬の念はもちろん、太宰治という一人の表現者として深く興味が惹かれる秋原監督。「自分も太宰と同じ大学の文学部出身で、高校は夏目漱石と同じ。たぶん、同級生だったら生粋の東京生まれの私は、太宰のすごく嫌いなタイプの人間だったんじゃないかなと（笑）。もし彼が現代に生きていたら、絶対に映画監督をやっていたと思うんです。それを当時、小説だけで表現していた。しかも、私的なことを書き綴っているようで、途中から全くのフィクションになっていたり。作品に二面性、三面性を持たせて複雑な展開をつくっているのが、太宰のすごいところだなと思います」。なお、『斜陽』で主人公・かず子を演じる佐藤江梨子さんも、熱心な太宰治信奉者だそうで、「彼女は、本当に太宰が好きで好きでたまらないらしく、僕なんかよりもずっと作品を読み込んでいますよ」。そんな佐藤さんと監督が共有するある思いが、「小説というフィルターを通して表現されている太宰の内面を、映画化する過程で知ろうと思っています。そのためには、太宰の足跡を訪ねてみたいというのがありますね。それは、佐藤江梨子も同じ思いのようです」。

実は、青森とのつながりが密接な秋原作品。『銀河鉄道の夜』（2006年公開）では、津軽鉄道の協力を仰ぎストーブ列車で撮影。『五重塔』（2007年公開）は五所川原市、『伊藤の話』（2007年公開）も八戸市が口ケ地となっています。「『銀河鉄道の夜』は津軽中里駅で撮影をしたので、太宰治の生まれ育った旧金木町には何度も訪れたことがあります。そして、印象的だったのは、五所川原から弘前に向かう時に見た岩木山ですね。遠目からだと、富士山と全く同じ構図で見えるじゃないですか。太宰は、郷里で"津軽富士"として、すでに出会ったことのある景色だったんです。「富嶽百景」の"たいしたことはなかった"というくだりは、これに引っ掛けてあるんだなって気づいて。やっぱり、実際に行ってみないと分からないな、と思いましたね」。そんな監督が考える"太宰と旅する津軽"とは。「太宰が津軽にいたのは高校生までですから、彼の目に映った景色はクルマに乗って通りすぎるものでは無いと思うんですよ。だから、実際に"歩いてみる"というのがいいのかなと。タクシーや列車で目的地に着いたら1駅分ぐらいを歩いてみるような。そうやって肌で感じること、いろいろな発見が、実はたくさん有るんじゃないかなと思うんです。自分も、ロケの途中ふらっと立ち寄った場所で、自分なりの津軽の面白さを見つけました。そんな旅を、じっくり時間をかけて何度も楽しむものがいいと思いますよ」。

撮影は11月からスタート。やはり、秋原監督がどのように大作「斜陽」を映像化するのが気になるところですが、「一人の過去を持つ女性がポジティブに生きて行くという、現代のシングルマザーに通ずるような話にしたいと思っています。子どもを授かってやっぱりよかったという方向へ向かうことが、太宰の意図にそったものだと考えていますから。そこに、青森にある百貨店の包装紙が出てくるような、さりげなく"津軽"のテイストを入れていこうと構想を練っているところです。津軽という土地は、太宰のあらゆる作品の根底に深く関わっていて、結局はそこに立ち帰っているように感じるんです。そんな太宰の心も、表現できたらと思っています」。

結局、太宰治の心は津軽へ帰ってくるんです。

太宰治 生誕100年記念映画「斜陽」
2009年5月公開予定

［スタッフ］　監督：秋原正俊　音楽：黒色すみれ
［キャスト］　佐藤江梨子　温水洋一　伊藤陽佑
　　凜華せら　真砂皓太　小倉一郎　高橋ひとみ
■映画 斜陽 公式ブログ　http://www.kaerucafe.co.jp/blog-shayo/

秋原　正俊　あきはら・まさとし

1963年、東京生まれ。大学卒業後、番組プロデューサーとして活躍。2004年から劇場公開作品の制作に転じ、映画監督として数々の作品を発表。2005年の角田光代原作『真昼の花』より、名作文学を独自の切り口で描く「新感覚ブンガク映画」シリーズを手掛ける。シリーズ9作目となる夢野久作原作「二重心臓」が、2008年9月より全国で順次公開。カエルカフェ主宰。

津軽の旅 前編

うまい地酒や肴があるんですよ、太宰さん。

太宰さんが『津軽』の旅に出たのは、確か昭和19年でしたね。あれから64年…津軽の風景は、太宰さんの目にどう映ってますか？やはりあの頃とはずいぶん変わってしまったでしょうか。そういえば、太宰さんは当時と全然変わっていませんね。

小説『津軽』について
太宰治の代表的作品。1944年11月、小山書店から新風土記叢書の第7編として出版されました。同年の5月12日より6月5日まで郷里の金木町から津軽各地を旅し、津軽の風景や歴史、再会した人々のことなどを記した小説です。

蟹田 蟹田の蟹は今も美味いんですよ。

「蟹田ってのは、風の町だね。」

太宰さんがそう言った蟹田町は、今は平舘村・三厩村と合併して外ヶ浜町になりました。前に太宰さんが来た時と比べて、道路や鉄道も整備されたり、いろんな施設やお店もできて、ずいぶんと便利になりましたね。

でも、外ヶ浜の海や蟹田川、ヒバ林、それに観瀾山の景色はどうですか。ああ、少し違うけれど、相変わらずきれいですか。それを聞いて安心しました。

観瀾山は一帯が公園になっています。海水浴場やキャンプ場も整備されているんですよ。入り口の石柱に「風のまち」って刻まれているでしょう。これ、『津軽』から取られたものです。町の人たちはこの言葉をとても誇りにしていますよ。

太宰さんが、N君たちとお花見をしたのは、このあたりですか？

あ、この碑ですか。そう、太宰さんの文学碑ですよ。陸奥湾の見える良い場所にありますね。

「かれは人を喜ばせるのが何よりも好きであった！」

この碑は太宰さんの「正義と微笑」から井伏鱒二さんが選び、佐藤春夫さんが揮毫されたものです。井伏さんも佐藤さんも、太宰さんが大好きだったんですね。

そういえば太宰さん、蟹がお好きでしたね。蟹田の蟹は今も名物ですよ。津軽のお花見の頃から旬のトゲクリガニは、毛ガニより小ぶりだけど濃厚な蟹味噌が格別ですよね。花見の宴会にこれが出るとたんに静かになっちゃうといわれています。実は私も蟹は大好物で…今晩はこのトゲクリガニで一杯、やりましょう。

三厩 史実じゃなくても義経伝説は面白いんじゃないですか。

太宰さんも『津軽』で、ここ三厩に残る義経伝説にふれていましたね。

確かに史実では、義経は平泉で亡くなったとされています。でも、今も信じている人はたくさんいるんです。

ここが、三厩の由来であり、義経伝説の物語が秘められた厩石ですか。ここに逃れてきた義経が観音像に祈ると、白髪の老人が夢枕に立ち「三頭の竜馬を与える」と告げた。そこで岩の下の三つの岩穴を覗いてみると、竜馬が三頭つながれていたので、それに乗って蝦夷に逃げたという話ですね。それ以後、その三つの穴が開いた岩を「厩石」、そしてこの土地を、「三厩」と名付けたという伝説。なかなかロマンティックじゃないですか。

そして、ここが義経寺ですね。厩石の上に置かれていた義経の観音像を発見した円空が新たに仏像を彫り、この観音像を胎内に納めたという観世音菩薩を祭ったお寺。

それと、あそこに見えるのが義経が無事に蝦夷へ渡れるよう、兜を置いていった「甲岩」、さらに帯島の近くにある「鎧岩」は、島の神が義経の鎧ほしさに風を起こし、義経が鎧を捧げて海を渡ったという伝説がありますね。

本当か嘘か、ということより、平泉から津軽、そして北海道に至るまで伝説が残るということ、そこに託された人々の思いが、とても興味深いと思うんですよね。

そういえばここ、懐かしいでしょう。太宰さんが泊まった「奥谷旅館」ですよ。今は改装して「龍飛岬観光案内所」になっていますが、1999年までは旅館として営業していたんです。1階の奥の太宰さんが泊まった部屋もそのまま残っているそうですよ。

龍飛崎 今や龍飛崎は有名なところなんです。

太宰さんが紹介したということもありますが、龍飛崎は今やとても有名なんです。まずは「階段国道」というやつ。さっき、帯島あたりを通った時に見たでしょう。あの階段が国道339号の一区画なんです。なんで国道なのに階段になってるかについては、いろんな説があるようですが、観光名所になるからという地元の人々の気持ちもあったのかもしれませんね。階段だけじゃなく、家と家の間を通る路地も国道の一部。車道は別にあるし、こういう国道があっても面白いですよね。

『津軽』の一節をひいた文学碑も、もちろんあります。「ここは本州の袋小路だ。読者も銘肌せよ」という一節。さすがに津軽半島の最北端という風情は、以前とあまり変わらないんじゃないですか。

もう一つ大きな碑がありますね。これは「津軽海峡冬景色歌謡碑」といって、1977年に大ヒットした曲を記念して建立されたものです。赤いボタンがあるでしょう？そうそう、押すとその曲が流れるんですよ。

他にも龍飛崎は面白いものがいろいろあるんですが…そうですね、そろそろ暗くなってきたし、宿に行って一杯やりますか。

津軽全域 津軽の地酒です。なかなかのもんですよ。

さあ飲みましょう飲みましょう。津軽にも老舗の造り酒屋が多くありますが、今、注目なのは、青森県農業試験場が作り出した酒米「華吹雪」「華想い」で仕込んだお酒ですよ。ね、なかなかでしょう。よかったまがった。

津軽の地酒は「味のしっかりした旨口の酒」ですよ。食べ物に負けない強さがあるから、肴もすすみますね。

そうですね。太宰さんが『津軽』の旅で訪れた昭和19年は戦時下の、いよいよ物がなくなってきた厳しい時代ですから。今はこんなにお酒も食べ物も豊かで、ちょっとぜいたくな気もしますけれど。

りんご酒も今はずいぶん美味しくなったと思いますが…やっぱりいいですか。そういえばりんご酵母で仕込んだお酒もあるんですよ。これは冷やでやるのが美味いんです。それからこれは…。

おや、もう眠くなっちゃいましたか。そういえば私もずいぶん酔ったみたいですね。じゃあここはひとつ、雑魚寝といきませんか。

トゲクリガニ

1. 観瀾山公園（外ヶ浜町／旧蟹田町）
   ●交通／JR蟹田駅から徒歩15分
2. 義経寺（外ヶ浜町／旧三厩村）
   ●交通／JR三厩駅より車5分
3. 旧奥谷旅館（龍飛岬観光案内所）（外ヶ浜町／旧蟹田町）
   ●交通／JR三厩駅より車30分●問／0174-31-8025
4. 龍飛崎・階段国道（外ヶ浜町／旧三厩村）
   ●交通／JR三厩駅より車40分
5. 津軽海峡冬景色歌謡碑（外ヶ浜町／旧三厩村）
   ●交通／JR三厩駅より車40分

津軽鉄道

津軽五所川原駅から津軽中里駅を結ぶローカル鉄道。太宰治ゆかりの金木駅、小説にも登場する芦野公園駅を通るので、津軽を楽しむには好適の鉄道です。冬のストーブ列車、夏の風鈴列車、秋の鈴虫列車も有名です。

また2009年6月～8月には、太宰治生誕百年を記念して「だざい弁当」を発売します。タラ、ミズ、根曲がりたけなど、太宰の好物をおかずにした津軽の味わい深いお弁当。3日前まで要予約（2個以上限定）です。価格1,200円（税込）

●お問い合わせ／
津軽鉄道株式会社
0173－34－2148

※観光に関するお問い合わせは、裏表紙に掲載の観光問い合わせをご覧ください。

津軽の旅 後編

ほら、あそこ。タケさんと再会した所ですよ。

『津軽』の旅も後半。いよいよクライマックスが近づいてきましたね。木造、深浦、白神山地、そして――小泊。津軽の西海岸は、今もやさしい風景のままですか。そして、タケさんは今も、思い出のままの姿ですか。

小泊海岸　夫婦岩

木造　木造の土偶、世界的に有名なんですよ。

木造は太宰さんのお父さんの故郷なんですよね。今は「つがる市」になっていますが、ここは全国的、いや、世界的に知られた町です。

亀ヶ岡石器時代遺跡が国史跡に指定されたのが1944年ですから、『津軽』ではふれられてはいませんが、太宰さんもご存じかもしれませんね。縄文時代晩期を象徴する遮光器土偶が出土した遺跡です。この土偶も国の重要文化財です。ええ、JR木造駅の看板になっているのがそうです。驚きましたか。確かに以前、太宰さんが来た時は「古びた閑散な町」「コモヒの町」と書いていますから、もっと静かな感じの町だったでしょうからね。そう、木造は現在「遺跡のまち」として有名なんです。

考古学に関する施設が「つがる市縄文住居展示資料館（カルコ）」です。ここには亀ヶ岡遺跡から出土した土器と石器が展示されています。遺跡の近くには木造亀ヶ岡考古資料室（つがる縄文館内）もありますよ。

深浦　太宰さんが泊まったところです。覚えていますか？

深浦町は『津軽』の取材の旅で、初めて行ったんでしょう。上方と蝦夷地を結ぶ北前船の風待ち湊として江戸時代から明治時代にかけて栄えた港町ですね。日本海に沈む夕陽がきれいなので「日本の夕陽百選」に選ばれたんですよ。

はははあ、ここが円覚寺ですか。坂上田村麻呂が建立した縁起を持つ古刹ですね。国重文「薬師堂内厨子」や日本最古といわれる「北国船の船絵馬」などが奉納されています。もちろんお参りした太宰さんはご存じのことですけれど…。

あ、ここ。太宰さんが泊まった秋田屋旅館ですよね。残念ながら今は旅館ではないんです。「太宰の宿　ふかうら文学館」として2004年に開館した施設です。改装されてきれいになってるでしょう。2階の太宰さんが泊まった部屋、あの頃のままですか。え、だいぶきれいになってますか。

ここは太宰さんの他にも、十和田湖や奥入瀬渓流を紹介したことで知られる大町桂月、俳人・成田千空ゆかりの宿でもあるんです。こういう地元の歴史のことは、地元の人に案内してもらえたらいいですよね。深浦町には「風まち湊案内人」という観光ガイドがいるそうですから、今度来るときはお願いしましょうね。

それから深浦といえば温泉ですよ。不老ふ死温泉、深浦温泉、みちのく温泉、鍋石温泉と4つの温泉があります。迷いますけど海岸にある露天風呂が名物の不老ふ死温泉と、南ヨーロッパ風のコテージやレストラン、物産館、ガラス工房などがある「ウェスパ椿山」の展望風呂が面白そうですね。どこかでひとつ風呂、浴びていきましょう。

鰺ヶ沢　白神山地は世界遺産になったんですよ

青森県南西部の西目屋村、鰺ヶ沢町、深浦町から秋田県北西部にまたがる面積約13万ヘクタールの白神山地は太宰さんもご存じだと思いますが、人手がほとんど入っていないブナの原生林が広がり、生態系も保たれている貴重な自然遺産として世界的に認められているんです。白神山地の約1万7千ヘクタールが、1993年にユネスコの世界自然遺産に登録されたんですよ。

太宰さんは、鰺ヶ沢のことを「海岸に沿うた二本街」と書いていますが、山の方には行かなかったんですよね。白神山地の豊かな自然を気軽に体験できるブナ林散策ゾーン「ミニ白神」というところが、鰺ヶ沢町にあるんですよ。もとは藩政時代の田山で、田圃の水を確保するために禁伐林として地元の人々に大切に守られてきました。そして、明治以降は土地は国生えている木は地元民という「官地民木」の全国的にも珍しい形態で今日まで保護されてきました。規模はおよそ52ヘクタール。樹齢200年を超えるブナもあり、世界遺産の白神山地核心部同様の森林景観を保っているんです。木道が整備されているところもあって歩きやすいんですよ。とまあ、能書きはこれぐらいにして、ちょっとブナ林の中を歩いてみませんか。気持ちいいですよ。

1. 円覚寺（深浦町）●交通／JR深浦駅より徒歩20分
2. つがる市縄文住居展示資料館（カルコ）（つがる市）●交通／JR木造駅から徒歩15分●問／0173-42-6490
3. 太宰の宿　ふかうら文学館（深浦町）●交通／JR深浦駅より徒歩10分●問／0173-84-1070
4. ミニ白神（鰺ヶ沢町）●交通／JR鰺ヶ沢駅より車20分●問／0173-79-2009（くろもり館）
5. 黄金崎不老ふ死温泉（深浦町）●交通／JR艫作駅より徒歩15分●問／0173-74-3500
6. 小説「津軽」の像記念館（中泊町）●交通／JR五所川原駅よりバス約100分「小泊小学校前」下車すぐ●問／0173-64-3588

深浦町観光ガイド 風まち湊案内人（深浦町）●問／深浦町観光協会 0173-74-3320

小泊　太宰さん、タケさんを探した道を案内してください。

さて、いよいよ小泊ですよ、太宰さん。今は中里町と合併して中泊町になりましたが、小泊は北津軽の香りを色濃く残しているんじゃないでしょうか。

小泊海岸は、太宰さんは「国防上たいせつな箇所」としてこまかい描写は避けられましたが、今はもう大丈夫でしょう。日向国（今の宮崎県）都城出身の荒川秀山がこの地を歩いて漢詩を詠んだ「小泊十二景」が見どころですよね。「七つ石」「権現崎」「経島」「羅漢石」「姥石」「弁天崎」「稲荷堂」「青岩」「七つ滝」「傾り石」「燕崎」「竜飛崎」。今の自治体とは少しずれますが陸続きということで。ああ、今車窓から見える海岸がまさにそうなんですね。実に素晴らしい。

そして小泊といえば…太宰さん、もう気もそぞろですね…タケさんが住んでいたまちですよね。太宰さんの子守りで、「自分の母だと思っているのだ」と書いていましたね。

ここからはタケさんを探した道を歩いて行きましょうか。案内してくださいね。いやそんな、早足にならなくてもいいですよ。

あ、見えてきましたね。太宰さんとタケさんの再会を再現した「小説『津軽』の像」。記念館も、小泊小学校の運動場が望める場所に文学碑とともに佇んでいるんです。やっぱり太宰さんとタケさん、そんな感じでしたか。記念館の館内は「小説『津軽』の誕生／小説『津軽』のたどった足跡」「タケと太宰の再会」「タケと太宰の出会いと生涯」とテーマがあって「ビデオシアター」では、タケさんのインタビューが見られるんですよ。

あれ、どうしたんですか太宰さん。急に駆け出したりして。待ってくださいよ。

※観光に関するお問い合わせは、裏表紙に掲載の観光問い合わせをご覧ください。

つがる探究

もっと深くまだまだ面白い。

太宰治が生まれ育った津軽とは、どんな歴史や文化があるのでしょうか。ここでちょっとひと息入れて、津軽についてのあれこれをご案内します。

津軽の歴史

「つがる」の名は、『日本書紀』に「津苏」という字で初めて歴史に現れ、「津軽」の文字は鎌倉時代から記されます。鎌倉時代は安東氏が支配しましたが、15世紀に南部氏が津軽一円を支配します。大浦為信が南部氏より独立して津軽と外ヶ浜を奪ったのは1585年。その後豊臣秀吉から所領を安堵され、近代大名としての地位を確立します。「大浦」から「津軽」へ改姓したのもこの頃。江戸時代も大名として生き抜きました。

平川市尾上地区の町並み

お問い合わせ／NPO法人尾上蔵保存利活用促進会
0172-57-5190

長勝寺

津軽藩の菩提寺である長勝寺は、1528年に大浦盛信が鯵ヶ沢町に創建し、後に弘前に移された曹洞宗の名刹です。本堂や山門など主な建築はすべて国の重要文化財に指定されていて、江戸時代前期の重要な建築遺構です。

戦後、地主制度が崩壊し、太宰治の生家「斜陽館」も1948年（昭和23年）に手放されました。農地改革の後、自作農家として懸命に働く農家にとって、成功の証は「蔵」の有無でした。特に、平川市尾上地区には、300を超える農家蔵があり、大多数が戦後に建てられたものです。この地区では「蔵のないところに嫁はやれない」と言われるほどだったそうです。また江戸時代に伝わった大石武学流の流れをくむ農家庭園と生け垣の町として、農水省の「農村景観百選」にも選ばれています。生け垣のある農家庭園と蔵の町並みの散策が楽しめます。

「ねぶた」と「ねぷた」と「立佞武多（たちねぶた）」

津軽の夏を彩るまつりといえば、「青森ねぶた祭」「弘前ねぷたまつり」「五所川原立佞武多」などに代表されます。

起源は諸説ありますが、「眠り流し」が変化したものという説が有力です。つまり、病魔や睡魔を追い払い、農繁期に病で寝込むことがないようにとの願いをこめた行事なのです。

弘前ねぷたまつり

毎年8月1日～7日に開催される「弘前ねぷたまつり」は、大勢の市民が「ヤーヤドー」の掛け声とともに、武者人形や武者絵が描かれた山車を引いて市内を練り歩きます。扇ねぷた（扇型）と組ねぷた（人形型）を合わせると約70台ものねぷたが運行されます。

五所川原立佞武多

毎年8月4日～8日に開催される「五所川原立佞武多」は、高さが22メートルにも達する巨大な山車が「ヤッテマレ」のかけ声とともに運行されます。大正時代に廃れていった立佞武多ですが、設計図が発見されて1998年、80年ぶりに復活。最近ではアニメやゲームのキャラクターが立佞武多になり、話題を集めています。

青森ねぶた祭

毎年8月2日～7日に開催される「青森ねぶた祭」は、勇壮で巨大な「ねぶた」が市内中心部を練り歩き、「ハネト」と呼ばれる踊り手が「ラッセラー」というかけ声で跳ね回ります。ねぶたの題材は、多くは伝説や歴史上の人物、歌舞伎などですが、地元の伝説や偉人などを題材にすることもあります。

つがるが生んだ人びと

寺山修司（1936～1983）

弘前市生まれ。小説、詩、短歌、評論、戯曲、演出、エッセイ、映画監督、俳優、タレント、劇団主宰など、さまざまな活動を行った異才。主著に「書を捨てよ街へ出よう」「田園に死す」など。

棟方志功（1903～1975）

20世紀美術を代表する世界的な板画家。青森市生まれ。「ゴッホに憧れ、はじめは油絵を志しますが板画に転向。世界各国の美術賞を受賞し、世界的な名声を得ます。代表作に「釈迦十大弟子」など。

弘南鉄道

弘南鉄道は、弘前駅と黒石駅を結ぶ「弘南線」と、中央弘前駅と大鰐駅を結ぶ「大鰐線」の2つの路線がある民営鉄道です。最初の弘前～津軽尾上間が開通したのは1927年（昭和2年）のことなので、太宰も列車の姿を目にしたことがあるかもしれません。

沿線には、太宰が当時に訪れ、『津軽』にも記した大鰐温泉に最寄りの「大鰐駅」や、農家蔵がたくさん残っている平川市尾上地区に最寄りの「津軽尾上駅」があり、太宰と津軽巡りの旅に便利です。

また弘南線7000系電車の一部車両には沿線の高校の生徒が描いた"ラッピング車両"が走っています。

よりディープな津軽を味わう。

青森シャモロック

太宰治の作品では、食べ物の描写も重要な要素になっています。実際、太宰は食べ物にこだわりを持ち、食材も料理も、津軽のものが一番とよく言っていたそうです。

彼は鶏肉をさばくのが隠れた趣味で、水炊きや鍋にしてよく食べていました。現在は、青森県畜産試験場が20年の歳月をかけて交配した高品質な地鶏「青森シャモロック」が生産されています。煮込んでもパサつかず、奥深い濃厚なダシが出るのが特徴。きめ細かい肉質は、焼き鳥にも向いています。太宰さんにも食べてほしかったですね。

豆腐や納豆も太宰の好物で、昭和10年代、東京では彼の好きなひきわり納豆を見ることはなかったそうです。それもそのはず、ひきわり納豆発祥の地は津軽なのですから。妻の美知子さんは、初めて金木に来たときに兄嫁にお願いして生揚や納豆をお土産にもらったそうです。

タケノコといえば一般的には孟宗竹の筍ですが、津軽でタケノコといえば「根曲がりたけ」のこと。正式にはチシマザサのタケノコで、アスパラガスくらいの太さ。太宰はこの根曲がりたけとワカメの味噌汁が好物でした。

根曲がりたけが出る頃から秋まで採れる津軽の代表的な山菜、ミズ（ウワバミソウ）も太宰は食べていたでしょう。ぬめりがあり、シャキシャキした歯ごたえが特徴。山梨出身でミズを知らなかった美知子さんが深浦の駅で「大きなほうれん草」と間違えたときに「あれはミズというもんだ」と教えてあげています。

昆布のちょっと変わった食べ方をするのが「若生昆布（わかめこぶ）」。これは1年めの春に採ったもので、薄くて柔らかいのが特徴。料理にももちろん使いますが、海苔のようにおにぎりに巻いていただくのが一般的。太宰はこの若生昆布のおにぎりが大好きで、夜食にいつも作ってもらっていたそうです。

若生おにぎり

ミズとホヤの水物

❶斜陽館
■開館時間／5月～10月…8:30～18:00（入館は17:30まで）、
11月～4月…9:00～17:00（入館は16:30まで）
■休館日／12月29日　■入館料／一般500円・高・大学生300円・小・中学生200円
■交通／津軽鉄道金木駅より徒歩約7分　■お問い合わせ／0173-53-2020

❷太宰治疎開の家
■開館時間／9:00～17:00
■休館日／不定休
■入館料／案内料500円
■交通／津軽鉄道金木駅より徒歩約3分
■お問い合わせ／太宰屋　0173-52-3063

❹芦野公園
■交通／津軽鉄道芦野公園駅から徒歩約1分
■お問い合わせ／五所川原市商工観光課　0173-35-2111

❻津軽三味線会館
■開館時間／5月～10月…8:30～18:00、11月～4月…9:00～17:00
■休館日／12月29日　■入館料／一般500円・高・大学生300円・小・中学生200円
■交通／津軽鉄道金木駅より徒歩約7分　■お問い合わせ／0173-54-1616

❽十三湖
■交通／JR五所川原駅よりバス約90分「中の島公園」下車すぐ
■お問い合わせ／五所川原市商工観光課　0173-35-2111

❸雲祥寺
■入場料／境内自由
■交通／津軽鉄道金木駅より徒歩約8分
■お問い合わせ／0173-53-2074

❺喫茶店「駅舎」
■営業時間／10:30～16:30　■定休日／毎週水曜日
■お問い合わせ／0173-52-3398

❼立佞武多の館
■開館時間／
4月～9月…9:00～19:00、
10月～3月…9:00～17:00
■臨時営業時間・休館日／
8月4日～8日…9:00～17:00、
8月13日…9:00～17:00、
12月31日…9:00～17:00、
1月1日…休館日
■入館料／（立佞武多展示室・美術展示ギャラリーセット料金）
大人800円・高校生500円・小・中学生300円
■交通／JR五所川原駅より徒歩約5分
■お問い合わせ／0173-38-3232

「津島修治」が「太宰治」になったのは、小学五年生の時だった。

太宰治と歩く
津軽・五所川原

津島家の「オンチャマ」は天才児

津島家の六男坊、修治は金木第一尋常小学校に入り、優秀な成績で学校中に知られていました。彼が5年生の6月に金木町内で火事が起こり、クラスメイトが亡くなりました。その葬儀で弔辞を読む役として、津島修治に白羽の矢が立ったのです。葬儀の日、修治は自ら書いた弔辞を堂々と読み上げ、参列者すべての涙を誘いました。

この時、修治少年が作家を志していたかどうか定かではありませんが、言葉で人の心をつかみ、そしてレクイエムを語った経験は、後の「太宰治」にとって大きな契機になったことは間違いありません。

小学校の級友と。左から2人目太宰治。

❶斜陽館

太宰の生家である太宰治記念館「斜陽館」は、太宰が生まれる2年前の明治40年、父・津島源右衛門が建てさせた豪邸です。和洋折衷・入母屋造りの建物は、棟梁建築家・堀江佐吉が設計したもので、米蔵にいたるまでヒバを使い、当時のお金で工事費約4万円をかけて造られました。太宰はこの家を「苦悩の年鑑」で「父はひどく大きい家を建てたものだ。風情も何もないただ大きいのである」と書いています。昭和25年からは旅館「斜陽館」となり、現在は太宰治記念館として貴重な史料を展示しています。主と長兄だけが入れる「茶の間」と太宰が過ごした「常居」には段差があり、幼少の太宰が茶の間に上がろうとすると兄に頭を押さえられ、子守りのたけに袖を引っ張られたそうです。また太宰は蔵の石段の下でごはんを食べるのが好きで、たけに昔噺を語らせて一匙ずつ食べたようで「手かずもかかったが、愛（め）ごくてのう、それがこんなにおとなになって、みな夢のようだ」と小説「津軽」でたけに語らせています。他にも太宰治誕生の部屋や、ふすまに書かれた漢詩に見られる「斜陽」の文字など、幼少期の太宰に出逢える貴重な場所です。

❷太宰治疎開の家（新座敷）

終戦直前の昭和20年7月末から1年4ヶ月間、太宰が妻子を連れて疎開した家。大正11年に太宰の長兄・文治の結婚を機に生家の離れとして建築され、当時は「新座敷」と呼ばれていました。文壇登場後の太宰が暮らした、唯一現存する建物で、太宰の息づかいをリアルに感じられる特別な空間が眠っています。昭和17年に、床に伏した母に逢うため東京から帰省。離れの10畳間で母と対面し涙をこらえたエピソードを「故郷」に記しています。空襲の際、防空壕に入って子どもたちに聞かせた昔話を「お伽草紙」にまとめたほか、「パンドラの匣」「冬の花火」「春の枯れ葉」「苦悩の年鑑」「トカトントン」など22の作品をこの家で執筆しました。太宰が仕事部屋として使い作品を執筆した6畳間には、往時と同じように津軽塗の机が置かれ、訪れた人はそこに座り、太宰に思いを馳せることができます。

「お伽草紙」

こんどは、五歳の女の子が、もう壕から出ましょう、と主張しはじめる。これをなだめる唯一の手段は絵本だ。桃太郎、カチカチ山、舌切雀、猫取り、浦島さんなど、父は子供に読んで聞かせる。

この父は服装もまずしく、容貌も愚なるに似ているが、しかし、元来ただものでないのである。物語を創作するということに奇異なる術を体得している男なのだ。

――「お伽草紙」（1945年刊）より

❸雲祥寺

斜陽館のすぐ近くにある雲祥寺は、子守りをしていたたけの生家・近村家の菩提寺です。3、4歳の頃の太宰は「思ひ出」の中で、たけに連れられ、この寺の地獄絵を見たときの印象を「嘘を吐けば地獄へ行ってこのように鬼のために舌を抜かれるのだ、と聞かされた時には恐ろしくて泣き出した」と書いています。境内には卒塔婆の一種で、通る人に輪をまわしてもらうと供養になるといわれる後生車があります。その輪をからから廻して同じ方向に回れば極楽へ行き、逆に回れば地獄に落ちるそうで「たけが廻すといい音をたててひとしきり回って（中略）私が廻すと後戻りすることがたまたまあるのだ。（中略）私は絶望してその墓地から立ち去った」と記しています。

「思ひ出」

そのお寺の裏は小高い墓地になっていて、山吹かなにかの生垣に沿うてたくさんの卒塔婆が林のように立っていた。卒塔婆には、満月ほどの大きさで車のような黒い鉄の輪のついているのがあって、その輪をからから廻して、やがて、そのまま止ってじっと動かないならその廻した人は極楽へ行き、一旦とまりそうになってから、又からんと逆に廻れば地獄へ落ちる、とたけは言った。

――「思ひ出」（「晩年」1936年刊・所収）より

❹芦野公園

五所川原市金木町の中ほど、芦野湖をもつ約80ヘクタールの自然公園です。

日本さくら名所100選に選ばれた2,200本の桜と老松が湖畔に広がる景勝地で、園内には、太宰治文学碑や歴史民俗資料館、津軽三味線発祥の地碑のほか児童動物園があります。公園の中を津軽鉄道が通り、春、桜に埋もれる様は圧巻です。幼い太宰がよく遊んだ公園でもあり、太宰治文学碑には「撰ばれてあることの　恍惚と不安と　二つわれにあり」が刻まれています。毎年6月19日には、この碑前で生誕祭（旧桜桃忌）が行われています。

❺津軽鉄道芦野公園駅　駅舎

「津軽」の中で「金木の町長が東京からの帰りに上野で芦野公園の切符を求め、そんな駅は無いと言われ憤然として、津

❻津軽三味線会館

斜陽館の向かい側にあるのが津軽三味線会館です。津軽三味線の歴史をはじめ、民謡、郷土芸能、世界の弦楽器についても紹介。多目的ホールでは、毎日津軽三味線のライブステージが行われ、迫力ある生演奏を聴くことができます。太宰の故郷で、魂の音色を聴くのも一興です。

❼立佞武多の館

「ヤッテマレ　ヤッテマレ」という威勢のいい掛け声とともに、高さ22メートル、重さ17トンの巨大ねぶたが街を行く「立佞武多」。その魅力を、いつでも体感できるのが立佞武多の館です。見どころは4階まで吹き抜けになっている立佞武多展示室。祭りの夜をイメージした室内に一歩足を踏み入れると、誰もがその高さに圧倒されます。巨大ねぶたが五所川原の記録に登場するのは明治40年頃から。大正時代に姿を消した立佞武多が復活したのは1998年、80年ぶりのことでした。

❽十三湖

津軽平野の北端にある十三湖は、世界自然遺産白神山地と霊峰岩木山を源流とする岩木川の淡水、そして日本海の海水が混ざり合った汽水湖です。中世の頃には安東氏が支配し、貿易港として賑わいを見せていました。青森県で3番目の大きさを誇り、小説「津軽」で太宰は、小山の頂上から眺めた様子を記しています。

❾ヤマトシジミ

十三湖の特産品が「しじみ」。白神山地を源流とする岩木川の栄養のある淡水と海水が混ざり合う環境がしじみの生育に最適で、十三湖のしじみは粒が大きく、味が濃いといわれています。湖の周辺には、しじみラーメンや、しじみ尽くしの定食を味わえる店が点在。夏の間は、しじみとり体験もできます。

斜陽館

太宰治と歩く
津軽・弘前

太宰の文才は、小説だけでなく、英作文にも遺憾なく発揮された。

ブルウル氏は、彼の顔を見ずに言った。Most Excellent!

津島修治は昭和2年に官立弘前高校分科甲類に入学し、親類の藤田家に下宿します。この頃彼は、花街で遊ぶことを覚え、勉強はひどくおろそかになってしまいます。

それでも、英作文の授業だけは別で、天性の才能を発揮し、常にイギリス人教師ブルウルに絶賛を浴びました。

こうした経験や芥川龍之介の死に触発され、高校2年生の時に、1年間休んでいた創作活動を再開します。同級生と一緒に同人誌『細胞文芸』を発行し、街中にポスターを貼りました。同誌はさまざまな事情により4号で廃刊になってしまいましたが、文学への情熱は冷めることなく、ますます彼の内面で燃え上がることになるのでした。

❶太宰治まなびの家（旧藤田家住宅）

太宰治が官立弘前高等学校在学期間中の昭和2年4月から5年3月まで下宿していた旧藤田家住宅です。この建物は弘前市松森町で酒造業を営む本家高嶋屋の分家・藤田豊三郎の住居として大正10年に建築。その際は新しい材木によらず、元碇ヶ関村長の家を移築したと伝えられています。平成16年度、都市計画道路整備に伴い約100メートル離れた場所に移築復元され、現在一般公開されています。当時の弘前高校は自宅が市外の新入生は入寮する決まりがありましたが、太宰の生活管理を心配した母が、親戚筋にあたる藤田家に下宿させることにしたそうです。2階奥の太宰の部屋は、押入、縁側、出窓が付いた6畳間で、太宰が実際に使用した机や茶だんすなどが当時のままの状態で置かれ、太宰の暮らしぶりを感じることができます。ふすま一枚隔てた手前の部屋には、太宰の2歳下で藤田家の長男・本太郎が暮らしていました。太宰は1年の時、ひたすら学業に専念し、芥川龍之介の死にショックを受けたり、義太夫を習いに行っていました。2年の時には同人誌「細胞文学」を刊行。藤田本太郎の日記によると、太宰が書いた原稿30枚を読んでもらったそうです。また2人は、さくらまつりに行ったりチェスを楽しんだりと親交を深めていました。室内には写真が趣味だった本太郎撮影による、太宰のおどけた写真も展示されています。そして太宰は、当時流行していた左翼思想に興味を持ち、芸者遊びと文筆の日々…。太宰治が多感な時代を過ごした家です。

弘前高校時代に止宿した藤田家の人たちと。左端が太宰治、右端が藤田豊三郎

❷土手の珈琲屋　万茶ン

弘前市のメインストリート・土手町から少し入ったかくみ小路にある万茶ンは、昭和4年に創業した東北最古の喫茶店です。官立弘前高校時代の太宰や、画家・阿部合成、小説家・石坂洋次郎らも通ったようで、店内には弘高生が作った大鵬のレリーフが店のシンボルとして飾られています。太宰が通った頃のレシピをたよりに再現した「昭和の珈琲」太宰ブレンドは、ほろ苦いスッキリとした味が郷愁を誘います。

❸開雲堂

弘前の繁華街・土手町で創業を始めて100余年、城下町の味をしっかり守り続けている老舗の菓子店です。太宰が通った「万茶ン」から、歩いて3分ほど。津軽藩祖為信公の300年祭が行われた明治39年、それを記念して作られた、藩の旗じるしを形どった銘菓「田最中」は弘前を代表するお菓子。

❹ヤマニ仙遊館

創業明治初期、現在の建物は明治30年に建てられたヤマニ仙遊館は、津軽の奥座敷と呼ばれた大鰐温泉で最も古い旅館です。平川河畔に面した閑静な宿には、近隣に住む裕福な家から多くの湯治客がやってきたそうで、金木の津島家（太宰の生家）もそのひとつ。幼少の太宰や、葛西善蔵、奈良岡正夫ら文人墨客も逗留したようです。また官立弘前高校時代、母と共に静養のために過ごした場所でもあります。往時の面影を残す宿は平川沿いに部屋が並び、当時川の向こうには置屋や料理屋があって、三味線を手にした芸者さんたちが行き来していた様子を、太宰も眺めていたかも知れません。

❺青森銀行記念館

青森県初の銀行（旧第五十九銀行）として、太宰治の生家斜陽館を設計した堀江佐吉が建てた、ルネッサンス風・和洋折衷の建物です。洋風の曲がり階段は窓を塞がないための工夫が施され、斜陽館の階段と似ています。天井に使われている「金唐革紙」が当初の姿で残っているのは全国でも小樽の日本郵船とここだけ。銀行ゆえの防火窓や、県産ケヤキでつくったカウンターなど見ごたえ十分。国指定重要文化財です。

❻旧弘前市立図書館

こちらも斜陽館を設計した、堀江佐吉が明治39年に建築したルネッサンス様式の建物です。左右にある八角形のドーム型双塔、石積基礎など洋風技法水準の高さを感じさせ外壁は漆喰塗りで仕上げられています。図書館の移転に伴い後に下宿屋や喫茶店として使われていましたが、平成2年7月に市制施行百周年の記念施設として修復・復元。平成5年には青森県重宝に指定されています。

❼弘前城

津軽統一を果たした初代藩主津軽為信が慶長8年（1603）に計画、2代藩主信枚が慶長16年（1611）に完成させた津軽氏の居城です。広さ約49.2ヘクタール、東京ドーム10個分以上の敷地は三重の濠と土塁に囲まれ、6つの郭で構成されています。現在の天守は文化8年（1811）に再建され往時の風情を偲ばせています。弘前公園内にはソメイヨシノを中心に約50種2600本の桜が咲き誇り、小説「津軽」で太宰は「ここは津軽人の魂の拠りどころである」と紹介しています。

❽津軽藩ねぷた村

弘前の夏の夜を彩る重要無形民俗文化財・弘前ねぷたまつりをはじめ、津軽の民工芸品、津軽三味線の生演奏など、津軽をまるごと見て、体験できる充実した施設です。高さ10mの大型ねぷたを見ながら太鼓やお囃子の実演を楽しんだり、津軽三味線の生演奏を間近で聴いたり、津軽の文化が体験できる弘前ねぷたのテーマパーク。

❾AtoZ Memorial Dog

弘前出身の世界的アーティスト奈良美智と、大阪のクリエイティブユニットgraf、全国から集まったボランティアと共に開催されたAtoZ展。その成功を記念して、開催地となった吉井酒造煉瓦倉庫前の土淵川吉野町緑地に作られました。ところんとした表情が可愛いいメモリアルドッグは、さわっても写真を撮ってもOKです。

「津軽」

お城のすぐ下に、私のいままで見た事もない古雅な町が、何百年も昔のままの姿で小さい軒を並べ、息をひそめてひっそりうずくまっていたのだ。ああ、こんなところにも町があった。年少の私は夢を見るような気持で思わず深い溜息をもらしたのである。万葉集などによく出て来る「隠沼（こもりぬ）」というような感じである。私は、なぜだか、その時、弘前を、津軽を、理解したような気がした。

――「津軽」（1944年刊）より

「猿面冠者」

彼はそのころ、北方の或る城下まちの高等学校で英語と独逸語とを勉強していた。彼は英語の自由作文がうまかった。入学して、ひとつきも経たぬうちに、その自由作文でクラスの生徒たちをびっくりさせた。

――「猿面冠者」（『晩年』1936年刊・所収）より

太宰治（左）と平岡敏男（毎日新聞社）。昭和4年頃、弘前市喫茶店「みみずく」の前にて。

❶太宰治まなびの家（旧藤田家住宅）

■開館時間／10:00～16:00　■休館日／12月29日～1月3日　■入館料／無料
■交通／JR弘前駅から徒歩20分
■お問い合わせ／弘前市教育委員会文化財保護課　0172-82-1642

❷万茶ン

■営業時間／3月～11月…10:30～18:30（ラストオーダー）
12月～2月…11:30～18:30（ラストオーダー）
■定休日／不定休
■交通／JR弘前駅からバス約10分「下土手町」下車すぐ
■お問い合わせ／0172-35-4663

❸開雲堂

■営業時間／9:00～18:00　■定休日／火曜日
■交通／JR弘前駅から徒歩15分　■お問い合わせ／0172-32-2354

❻旧弘前市立図書館

■開館時間／9:00～17:00
■休館日／無休　■入館料／無料
■交通／JR弘前駅からバス約15分、「市役所前」下車すぐ
■お問い合わせ／弘前市教育委員会文化財保護課
0172-82-1642

❺青森銀行記念館

■開館時間／9:30～16:30（入館は16:00まで）
■休館日／12月～翌3月（2月雪燈籠祭り中は無休）、開館中は火曜日、8月13日休館、さくらまつり・ねぷたまつり・雪燈籠まつり期間中は無休
■入館料／大人200円、小中生100円、毎月15日・四大まつり期間中無料
■交通／JR弘前駅から徒歩約20分　■お問い合わせ／0172-33-3638

❼弘前公園（弘前城）

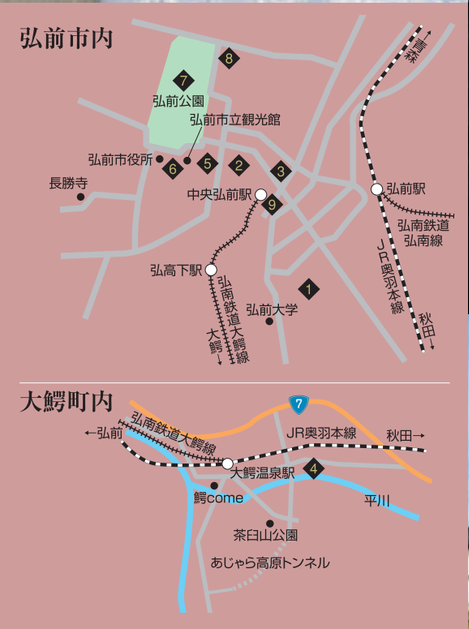
■交通／JR弘前駅からバス約15分、「市役所前」下車すぐ
■お問い合わせ／弘前市公園緑地課　0172-33-8739

❽津軽藩ねぷた村

■営業時間／4月～11月…9:00～17:00、12月～3月…9:00～16:00
■定休日／12月31日
■入村料／一般500円、高・中学生300円、小学生200円、幼児（3才以上）100円
■交通／JR弘前駅からバスで15分、「津軽藩ねぷた村」下車すぐ
■お問い合わせ／0172-39-1511

❾奈良美智のメモリアルドッグ

■交通／JR奥羽本線弘前駅から徒歩約15分
■お問い合わせ／弘前市公園緑地課
0172-33-8739



❹ヤマニ仙遊館

■住所／南津軽郡大鰐町蔵館字村岡47-1
■交通／JR大鰐温泉駅より徒歩約10分
■お問い合わせ／0172-48-3171

太宰治と歩く
津軽・青森

無名だった棟方志功の才能を、太宰治は早くから見抜いていた。

「この絵はいまにきっと高くなります」

津島修治が県立青森中学校に入学したのは、大正12年、14歳の時でした。彼は市内の親戚、豊田太左衛門方に寄宿して中学に通いました。豊田氏は修治を大変可愛がり、修治も豊田氏を「おじさ」と呼んで甘えていました。修治が中学二年のとき、寺町（現在の本町）にあった花屋に飾られていた洋画を2円（現在の価値に換算すると5、000円～6、000円）で買い、豊田氏にプレゼントします。

実はこの絵、上京する前に描いた棟方志功の油絵。今では何十万とするでしょう。中学時代から芸術の審美眼を持っていた太宰治。やはりただ者ではなかったのですね。

前列右端、太宰治。左端、豊田太左衛門。

❶合浦公園

「津軽」や「思ひ出」に登場する公園です。

陸奥湾沿いの旧奥州街道を偲ばせる老松と、海岸の白い砂浜が程よく調和した、市街地の公園としては全国でも珍しい海浜公園です。春は青森市内の桜の名所で、約17ヘクタールの園内には、約600本の桜と700本余りの黒松、藤棚、つつじ園などがあり、遠浅の海水浴場やジョギングコース、歩くスキーのコースも整備されています。公園内にある市営球場のかたわらには、太宰が通った旧制青森中学校跡の石碑があります。ここで太宰は、公園の松のざわめきや波の音を聞きながら4年間学び、砂浜を歩きながら海峡の風景に見入ったそうです。

「思ひ出」

校舎は、まちの端れにあつて、しろいペンキで塗られ、すぐ裏は海峡に面したひらたい公園で、浪の音や松のざわめきが授業中でも聞えて来て、廊下も広く教室の天井も高くて、私はすべてにいい感じを受けたのだが、そこにいる教師たちは私をひどく迫害したのである。

――「思ひ出」（『晩年』1936年刊・所収）より

❷椿館

今から約400年前、浅虫温泉で、最初に開いた宿が椿館です。明治9年、明治天皇東北御巡幸の際は御座所となり、世界的板画家・棟方志功は常宿として数多くの作品を残し、財界人も多数訪れています。

金木の津島家でも湯治に来ており、椿館のご主人によると、中学時代の太宰はある日、おにぎりと本を持参し宿から歩いて15分程の裸島に渡ります。しかし満潮になって帰れなくなり、服を脱いでふんどし一本で帰って来たそうです。浅虫温泉の記述は「思ひ出」や「津軽」に残されています。

❸豊田呉服店跡

太宰は青森中学時代、金木からは遠くて通えないため、青森市寺町にあった親戚の呉服店・豊田太左衛門方に下宿します。寺町は昔の町名で、現在の本町一丁目あたりのこと。下宿先での様子は、東奥日報社から出された「月刊東奥」や、昭和十六年一月号に寄稿した「青森」に書き記しています。現在跡地には「豊田太左衛門方跡」の案内板が立っています。

「トカトントン」

私があなたの小説を読みはじめたのは、横浜の軍需工場で事務員をしていた時でした。（中略）いろいろ読んでいるうちに、あなたが私の中学校の先輩であり、またあなたは中学時代に青森の寺町の豊田さんのお宅にいらしたのだと言う事を知り、胸のつぶれる思いをしました。呉服屋の豊田さんなら、私の家と同じ町内でしたから、私はよく知っているのです。

――「トカトントン」（「ヴィヨンの妻」1950年刊）より

❹青森県近代文学館

青森県を代表する13人の作家を中心に、写真や自筆原稿など文学資料を展示しています。人気作家・太宰治のコーナーには、旧制弘前高校時代のお茶目な写真や、「人間失格」第二の手記の草稿、「お伽草紙」の原稿、晩年の執筆メモには「斜陽」「グッド・バイ」の構想などが記され、肉筆から伝わる太宰の細やかな息づかいを感じることができます。この他、直筆の書や、書簡、太宰には珍しい句帳「亀の子」も展示され、全国から太宰ファンが訪れます。太宰に関する所蔵資料は、およそ1000点。生誕百年を迎える来年は、特別展を予定しています。

❺常光寺

棟方志功の菩提寺で、太宰は青森中学校時代、常光寺に隣接する豊田呉服店に寄宿し学校まで徒歩で通っていました。中学時代の太宰は体を鍛えるため、この寺の境内で100メートルダッシュを繰り返したそうです。中学二年の太宰は、寺町の花屋で志功の絵を2円で買い、下宿先の主である豊田の「おじさ」に、この絵はきっと高くなる、とプレゼントします。それは志功初期の傑作だったといわれています。

❻青森県立美術館

日本最大級の縄文集落跡・三内丸山遺跡に隣接する青森県立美術館は、遺跡の発掘現場から着想を得た青木淳の設計です。館内はシャガールの舞台背景画3作品が飾られたアレコホールを中心に、強烈な個性を持つ青森県出身の棟方志功、寺山修司、ウルトラマンのデザインを手がけた成田亨、奈良美智など、一作家一展示室で作品をじっくり愉しむことができます。奈良美智が手がけた高さ約8.5メートルの「あおもり犬」と「八角堂」は必見。

❼にぎり寿司

三方を海に囲まれた青森県は、新鮮で美味しい魚の宝庫。だからこそ青森では、極上のネタを手頃な値段で堪能できるのです。陸奥湾のヒラメ、赤貝、ホタテ、アワビ、大間のマグロ、竜飛のタコ、八戸前沖のサバなど、寿司の魅力を存分に味わうことができます。

❽久慈良餅（くじらもち）

浅虫温泉を代表するお土産が、久慈良餅です。上質の津軽米を製粉し、吟味したこし餡に砂糖などを混ぜ蒸して作るお餅は、甘さひかえめ。ところどころに入ったクルミの風味と、もっちりとした歯ごたえが美味しい、伝統ある餅菓子です。浅虫温泉を訪れた太宰も、口にしたのではないでしょうか。

❶合浦公園
■交通／JR青森駅からバス約20分、「合浦公園前」下車、徒歩約3分
■お問い合わせ／合浦公園管理事務所　017-741-6634

❷椿館
■住所／青森市浅虫字内野14
■交通／JR浅虫温泉駅から徒歩約6分
■お問い合わせ／017-752-3341

❹青森県近代文学館
■開館時間／9:00～17:00（特別展期間中は18:00まで）
■休館日／毎月第4木曜日、蔵書点検期間、12月29日～1月3日
■入館料／無料
■交通／JR青森駅からバス約20分、「社会教育センター」下車すぐ
■お問い合わせ／017-739-2575

❻青森県立美術館
■開館時間／6月～9月… 9:00～18:00（入館は17:30まで）
10月～5月…9:30～17:00（入館は16:30まで）
■休館日／毎月第2、第4月曜日（祝日の場合翌日）、12月27日～12月31日
■入館料／一般500円、大学生・高校生300円、中学生・小学生100円
■交通／JR青森駅からバス約20分、「県立美術館前」下車すぐ
■お問い合わせ／017-783-3000

❼にぎり寿司

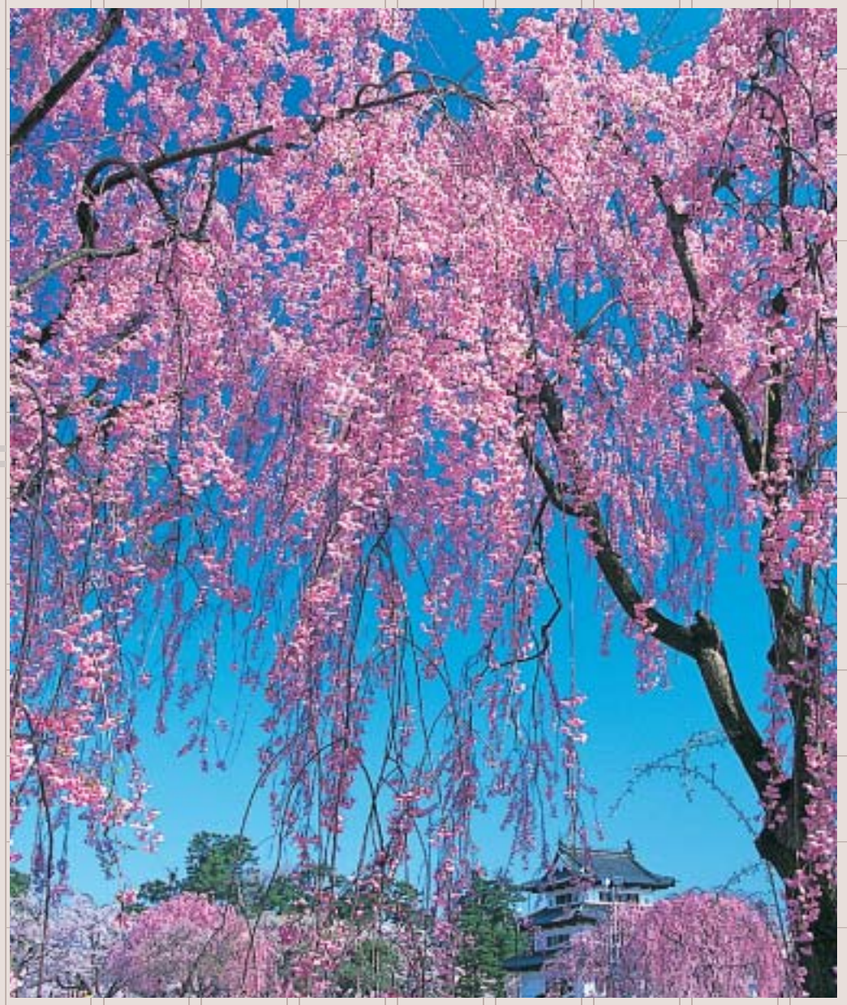
❽久慈良餅

❺常光寺
■入場料／境内自由　■交通／青森駅から徒歩約18分
■お問い合わせ／017-776-3744

❸豊田呉服店跡
■交通／JR青森駅から徒歩約15分

つがる歳時記

季節を彩る祭に、咲き競う花々。
つがるの四季は、鮮やかに移ろいます。
いつでも新鮮、それでいてどこか懐かしい。
それは、太宰治の作品の読後感にも似ています。



弘前さくらまつり

期間／4月下旬～5月上旬
会場／弘前公園

弘前公園は、日本一の規模を誇る桜の名所として知られています。ソメイヨシノを中心に、シダレザクラ、八重桜など、約50種類2600本の桜が、4月下旬から咲き初め、園内では民謡や伝統芸能を披露。夜にはライトアップされ、妖艶な姿が浮かび上がります。

お問い合わせ／弘前市立観光館　0172-37-5501

弘前城雪燈籠まつり

期間／2月7日～11日
会場／弘前公園

弘前公園内に、500基に及ぶ大小様々な燈籠や雪像が配置されます。夜になると、ミニかまくら群や雪像に灯りが点され、照明に浮かぶ弘前城とあいまって、幽玄の世界へ誘います。

お問い合わせ／弘前市立観光館　0172-37-5501

黒石よされ

期間／8月14日～20日（15日・16日 流し踊り）
会場／黒石市内商店街ほか

男女の恋の掛合唄が起源とされる「黒石よされ」は約2百年前から盛んになり、今に受け継がれています。3千人による流し踊りも壮観ですが、円を描く回り踊りは観客を巻き込んでの大乱舞となります。

お問い合わせ／黒石観光協会　0172-52-3488

お山参詣

期間／旧暦の8月1日
会場／岩木山神社

「サイギ、サイギ」の掛け声を響かせ、毎年旧暦8月1日、岩木山に津軽各地からに集団登拝して五穀豊穣を祈願する行事。国の重要無形民俗文化財に指定されています。気軽に参加できる「レッツウォークお山参詣」も人気です。

お問い合わせ／岩木山観光協会　0172-83-3000

アップルロード

東北自動車道「大鰐弘前IC」近くの弘前市石川から、岩木山神社のある百沢までの約22㎞を結ぶ広域農道。道路沿いにりんご園が連なり、春の開花から秋の実りまで、りんご王国の四季が存分に楽しめます。

お問い合わせ／岩木山観光協会　0172-83-3000

つがる祭ごよみ

太宰治生誕百年記念行事

太宰治の故郷、五所川原市で生誕100年を記念して、生誕祭式典の他、記念フォーラムやマラソンなどが開催されます。

1・太宰治生誕百年祭式典
◆期間／6月19日13時30分～14時45分
◆会場／芦野公園・太宰治文学碑前

2・記念フォーラム
◆期間／6月20日9時～12時
◆会場／五所川原市「ふるさと交流園民センター」

3・祝賀会
◆期間／6月20日12時30分～14時
◆会場／五所川原市・ホテルサンルート五所川原

4・走れメロスマラソン
◆期間／6月21日
◆コース／五所川原市から生誕地金木町までのハーフマラソン

5・記念展示会
◆期間／5月～6月
◆会場／立佞武多の館2階美術展示ギャラリー

お問い合わせ／五所川原市教育委員会社会教育課　0173-35-2111（代）

2月中旬
津軽海峡冬景色ツアー　【外ヶ浜町】
外ヶ浜町商工観光課　0174-31-1228

3月29日～31日
八甲田ウォーク　【青森市】
青森観光コンベンション協会　017-723-7211

4月下旬～5月上旬
金木桜まつり　【五所川原市】
金木商工会　0173-52-2611

6月上旬
第14回万国ホラ吹き大会　【大鰐町】
大鰐町企画観光課　0172-48-2111

6月21日
奥津軽虫と火まつり　【五所川原市】
五所川原青年会議所　0173-35-4049

7月～8月
津軽鉄道　風鈴列車　【五所川原市】
津軽鉄道株式会社　0173-34-2148

7月30日～8月5日
黒石ねぷたまつり　【黒石市】
黒石青年会議所　0172-52-3369

8月1日～7日
弘前ねぷたまつり　【弘前市】
弘前市立観光館　0172-37-5501

8月1日
浅虫温泉花火大会　【青森市】
青森観光コンベンション協会浅虫支部　017-752-3250

8月2日～7日
青森ねぶた祭　【青森市】
青森観光コンベンション協会　017-723-7215

8月4日～8日
五所川原立佞武多　【五所川原市】
五所川原立佞武多運営委員会　0173-35-2121

8月4日～7日
荒馬まつり　【今別町】
今別町観光協会　0174-35-2014

8月上旬
真夏のストーブ列車　【五所川原市】
津軽鉄道株式会社　0173-34-2148

8月7日
青森ねぶた海上運行・第55回青森花火大会【青森市】
青森花火大会実行委員会　017-739-1111

8月8日～10日
りんご灯まつり2009　【板柳町】
板柳町商工会　0172-73-3254

8月14日
みんまや義経まつり　【外ヶ浜町】
外ヶ浜町商工会三厩支所　0174-37-2002

8月14日・15日
十三の砂山まつり　【五所川原市】
十三の砂山まつり実行委員会　0173-62-2378

8月14日・15日
黄金の日本海深浦海まつり【深浦町】
深浦町観光課　0173-74-2111

8月14日～16日
"水と火の祭典"つるたまつり【鶴田町】
鶴田町商工会　0173-22-3414

8月15日
碇ヶ関御関所祭り　【平川市】
碇ヶ関村商工会　0172-45-2044

8月16日
大川原火流し　【黒石市】
黒石観光協会　0172-52-3488

8月28日～30日
馬市まつり　【つがる市】
つがる市商工観光課　0173-42-1114

9月
仁太坊祭り　【五所川原市】
金木あすなろ商店会　0173-52-2878

9月1日～10月中旬
津軽鉄道・鈴虫列車
津軽鉄道株式会社　0173-34-2148

9月12日・13日
黒石こみせまつり　【黒石市】
黒石こみせまつり実行委員会　0172-52-4316

9月20日
暗門祭　【西目屋村】
西目屋村商工会　0172-85-2828

10月12日
津軽海峡本マグロまつり　【外ヶ浜町】
外ヶ浜町商工会三厩支所　0174-37-2002

10月24日～11月3日
弘前城菊ともみじまつり　【弘前市】
弘前市立観光館　0172-37-5501

10月25日・26日
第23回深浦チャンチャンまつり【深浦市】
深浦町観光協会　0173-74-3320

2月7日・8日
黒石こみせまつり　【黒石市】
黒石こみせまつり実行委員会　0172-52-4316

2月上旬
津軽くろいし日本一の雪だるま【黒石市】
黒石商工会議所　0172-52-4316

つがる花ごよみ

4月～5月　春もみじ
白神山地（深浦町、西目屋村）
くろくまの滝（鰺ヶ沢町）
八甲田山（青森市）

4月下旬～5月上旬　桜
弘前公園（弘前市）
合浦公園（青森市）
東公園（黒石市）
芦野公園（五所川原市）
海峡あすなろ公園（今別町）
富士見湖パーク（鶴田町）

4月下旬～5月上旬　梅
津軽フラワーセンター（五所川原市）

4月下旬～5月上旬　カタクリ
カタクリの小径（黒石市）

5月　リンゴの花
アップルロード（南津軽～中津軽）

5月中旬～6月中旬　ツツジ
茶臼山公園（大鰐町）
田代高原（青森市）
白岩森林公園（平賀町）

5月下旬～6月上旬　ボタン
光信公の館（鰺ヶ沢町）

5月下旬～6月上旬　ニッコウキスゲ
ベンセ湿原（つがる市）

6月下旬～7月下旬　花菖蒲
藤田記念庭園（弘前市）